

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 北野同朋会 放課後寺子屋		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日		令和7年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日		令和7年 12月 29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団療育	<ul style="list-style-type: none"> 活動スペースが広く遊技場などもあるため、理学療法士による運動教室などを通して他者との関わり方を学び、集団でのルール理解を深めることができる。 休日の開所日には、季節行事やクッキングなどのイベントを通して、役割や順番の理解を深めたり、「できた」という成功体験を積むことができている。 社会性や集団でのルールを身に付けられるよう、挨拶カードや掲示物などの教材を作成、運用を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 週末のイベントや戸外活動を継続し充実させることにより、集団で活動する機会を増やしていく。 個別療育を充実させ、個人それぞれの苦手分野の集中的支援を行うことで集団での活動に活かしていく。
2	スタッフ間での情報共有	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の職員間での朝礼や、週に1回の管理者を含めた会議を行い、児童の様子や今後の対応などを検討し対応することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ドライバーのスタッフへの情報共有が不足してしまうことがあり、非常勤のスタッフでも周知できるよう、口頭以外での伝達手段を工夫する。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別療育	<ul style="list-style-type: none"> 宿題などを行う勉強ができる部屋はあるが、クールダウンなどができる個別のスペースがない。 職員の不足により、個別で対応できる人員配置が整っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団全体を見る職員と、少人数や特定の児童を見る職員に分けることで、児童の特性に合わせて課題を克服できるような支援を行う。 現在の活動スペースの使い方を工夫し、児童が落ち着けるようなスペースを確保する。
2	地域との関わりや保護者同士の関わる機会が少ない	<ul style="list-style-type: none"> 法人としての餅つき活動のイベントでは、地域住民と関わる機会もあるが、他の事業所や保護者同士で顔を合わせる機会がほとんどない。 	<ul style="list-style-type: none"> 法人としてだけでなく、事業所として地域の他の子どもと関わる機会や、保護者同士で交流できるような場を設けられるよう検討していく。
3			